

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0292400041		
法人名	株式会社 平山建設		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	青森県北津軽郡中泊町大字今泉字神山144-1		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	平成24年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成24年1月18日

(ユニット名)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物周辺の庭園の景観もよく、四季の移ろいが感じられる立地となっております。また、隣接する施設の温泉に入浴ができ、行事を一緒に行う等、交流を図っています。
入居様は明るく家庭的な雰囲気の中で生活しており、ご家族の方にも気楽に面会に来ていただいております。また、入居者様の家族や地域との結びつきを大切に考え、支援しております。
職員は日々笑顔で一緒に楽しみ、一人ひとりに寄り添ったケアを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日頃から、保育園や婦人会の訪問を受け入れている他、地域商店の訪問販売をお願いしたり、地域の横笛愛好会に職員が入会する等、積極的に地域との交流を持てるように取り組んでいる。系列施設と合同の夏祭りには、大勢の地域住民が参加して、地域に解けこんでいるが、まだ関わり合いが薄い団体についても、目標達成計画を立て、積極的に関わり合いを持つように努めている。
また、利用者の思いや希望を把握し、利用者を楽しませることについては妥協することなく取り組んでおり、イベントを企画する等、職員も達成感を味わい、楽しみながら日々の支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『「あなたらしさ」お守りします。これまでの暮らしに敬意を。これからの暮らしに希望を。』の運営理念のもと、その人らしさを尊重し、これまでの暮らしに敬意を払い、これからの暮らしに希望を持てるように地域に根づいていけるよう取り組んでいる。	理念は玄関先に大きく掲示している他、勉強会等で再確認し、職員は地域密着型サービスの役割を理解している。ホーム独自の理念を基に、利用者が第2の人生に希望を持ち、この地域で安心して暮らしていけるよう、職員は利用者に敬意を払い、日々の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店等の協力により、食品または衣料品の出張販売をしていただき、馴染みの関係を築いている。近隣保育所の運動会に参加したり、婦人会の訪問等で交流を図るように努めている。職員は地域で活動している横笛愛好会に入会し、町内のイベントに参加している。	保育園や婦人会の訪問を受け入れたり、地域の商店の訪問販売がある他、横笛愛好会に入会し、地域との交流を積極的に図っている。また、ホームで開催する夏祭りや運動会には地域の住民を招待し、大勢の参加を得ており、地域との良好な関係構築に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報にてボランティアを随時募集している。夏祭りには地域のボランティアとして職員が参加し、地域に還元する取り組みを行っている。隣接しているデイサービス利用者とのディスカッションにも参加している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、入居者、家族、地域住民、地域包括支援センターや行政の職員が会議に参加し、アドバイスをいただきながら、サービス向上に努めている。	運営推進会議の開催にあたっては、系列施設の会議と同日に調整し、参加しやすい状況を設定しており、本人や家族、地域住民、地域包括支援センターや行政の職員が毎回参加している。また、地域交流を深めること等の目標達成計画を掲げ、実現に向けて意見・助言をもらい、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居の報告はもちろん、市町村担当者に広報を送付している。また、運営推進会議では困難事例の対応等を協議し、意見交換をしている。	月1回発行している広報紙を配布し、自己及び外部評価の結果についても報告している。運営推進会議にも積極的に参加してもらい、困難事例がある時には、その都度課題解決に向けて相談・助言を得て、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>研修への参加や勉強会にて身体拘束について学んでいる。緊急時、やむを得ず行動の制限が必要になった場合には、主治医の指示のもとで最小限度にし、家族の理解と協力を得ながら、速やかに解除出来るように努める方針である。</p>	<p>マニュアルを基に勉強会を開催して理解を深め、日々、身体拘束を行わない姿勢でケアを行っている。無断外出時に備え、衣服にホームの連絡先を記載したり、日頃から地域との関わり合いを通じ、協力体制を整えている。また、やむを得ず身体拘束を行う場合には、家族に説明して同意を得る体制であり、医師の指示のもとで必要最小限に抑え、理由や方法を記載し、個別記録を残す体制を構築している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会や定例会、外部研修に参加し、虐待防止に努めている。また、当ホームの方針に基づいて入居者の尊厳を第一に考え、日々のケアに努め、言葉がけには注意するよう、周知徹底している。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>当ホームでも日常生活自立支援事業を利用している方が3名おり、地域包括支援センターに勉強会を依頼し、学ぶ機会を得ている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約の際は、入居者の家族の不安や疑問に懇切丁寧に対応している。料金等、契約に変更があった時には文書で通達し、同意を得ている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>嗜好調査や普通の会話を通して意見や要望を聞き、食事のメニューの改善等、出された意見を運営に直接活かしている。また、入居者、家族にはその都度報告し、相談しながら方向性を決め、運営推進会議に参加していただいている。</p>	<p>月末に利用者の生活状況等を報告し、現状を把握してもらっている他、意見箱を設置したり、家族が話しやすいような雰囲気づくりに努めている。また、意見を上手く表すことができない利用者については、日々の表情やしぐさを観察し、把握できるように努めている。出された意見はミーティング等で話し合い、職員は、より良いサービスを提供できるよう改善策を見出し、実践している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、毎月の勉強会、定例会を行い、職員と意見交換し、提案については密に話し合いを行っている。また、必要物品の購入等に関しては、その場で決裁されている。	朝のミーティング等で十分に意見交換を行い、個別の意見は随時管理者が聞く機会を作っている。また、道路を挟んだ向かいに系列の施設があり、日々交流を図っている他、異動の際は1ヶ月かけて徐々に引き継ぎを行い、利用者に影響が出ないように配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、慰安旅行や食事会を通して職員と積極的に会話する機会を持ち、4週9休制にする等、働きやすい環境作りをしている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員から希望者を募り、苦手分野をなくすよう、研修に参加している。また、毎月の定例会や勉強会にて報告を行うことで、職員のスキルアップを図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議や地域のグループホーム交流会、ケア会議に参加し、意見交換を行うことで、情報の収集とサービスの質の向上に取り組んでいる。			

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、基本情報や生活状態を詳しく聞き、不安なことや要望にも対応できるよう努め、今までの暮らしを本人から聞きだせるよう、時間を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族のニーズを把握し、アセスメントを重要視し、不安を取り除けるように努めている。また、信頼関係を築けるよう、言葉づかいに気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているかを見極め、十分に話し合いの上、対応している。必要に応じて各関係機関との連携を図っており、入居者の代弁者として、支援内容の優先順位に考慮している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場で得意分野を引き出しながら、人生の先輩であることに尊厳を持ち、時には教わりながら、共に支え合える関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼びかけ、入居者と一緒に過ごし、楽しめる場面を作っている。また、受診の際には家族に付き添っていたり、家族と一緒に悩み、考えながらケアに取り組んでいる。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの場所の把握に努め、墓参りや地域交流を行っている。隣接のグループホーム、デイサービスを利用している友人、知人に会いに行ったり、気軽に遊びに来ていただけるような環境作りを心がけている。	入居時に、本人及び家族から生活歴や馴染みの場所について確認しており、墓参りや馴染みの場所等に外出する機会を作っている。また、系列施設を利用して知人を訪ねたり、来訪する機会を設け、交流が図れるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人らしさや個性を活かし、役割や共同作業等でコミュニケーションを図り、職員とお茶の時間を過ごす等の工夫をし、意識して関わり合う場を設けている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院やサービス利用終了になった際にも家族の相談に乗り、関係を断ち切らないようにしている。また、入院先を訪問してみる等、信頼関係を保てるように努めている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、表情やしぐさ等から本人の意向を汲み取っている。意思疎通が困難な方には、家族の協力を得ながらアセスメント、カンファレンスをし、把握に努めている。	職員を担当制にしており、日頃の会話や表情、しぐさ等から利用者の思いや意向を把握している。うまく把握できない場合には、その都度家族の協力を得て、情報交換を行っており、アセスメントして把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、家族や本人、関係機関、在宅時の担当ケアマネより情報収集し、入居者一人ひとりが自分らしく暮らしていけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活習慣、生活リズムを把握出来るよう、情報を共有し、その人に沿った対応を心がけ、「気づき」を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制を敷いており、入居者の状況を把握すると共に、毎月のモニタリングでは本人の思いを一番に考え、話し合いをしている。また、家族の意見を取り入れながら、介護計画を作成している。	日々の暮らしから利用者の状況を把握し、職員からの意見や気づきを基にミーティングを行い、毎月モニタリングを行っている。また、計画の見直しの際は、職員や家族からの意見や気づきを情報収集し、個別に具体的な内容の計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしや受診状況・身体状況等、気づいたことを生活記録や業務日誌に記載している。職員間では、申し送りノートに記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに応じて、固定観念にとらわれず、常に入居者の立場になって、今必要な事・大切に思っている事を考え、冠婚葬祭、送迎等にも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急連絡網に地域の協力委員の名前を記載しており、火災、災害の時は協力を得られ、安心した暮らしができるように支援している。行事参加や訪問の受け入れも行う他、入居者自身が得意な芸を披露する等、楽しんでいただけるようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に添った病院を受診出来るようにしている他、必要に応じて、適切な医療を受けられる病院への受診も支援している。また、家族と共に受診する等、良好な関係を築いている。	これまでの受療状況を把握して個別に記録しており、かかりつけ医を継続して受診できるように支援している。利用者の病状の共有化を図るため、できる限り受診時には家族に同行してもらっており、家族が同行できない場合にはその都度連絡をしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に毎日報告している。入居者の健康管理、医療管理は常に相談し、24時間連絡がとれる体制となっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連絡を取り合い、情報交換や相談を行っている。入院した時は定期的に訪問し、担当の看護師と連絡をとり、回復状態を確認しながら、院内の地域連携室とも連絡を取り合っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	健康管理や急変時の対応について、明確にしている。「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」はあるが、まだ該当者はなく、同意書で同意を得ている。また、AEDを設置して対応できるようにしている。	急変時に対応するため、ホーム内にAEDを準備し、近隣の診療所と契約して往診の体制を整えている。また、重度化した場合の対応及び看取りに関する指針を明確にしており、入居時に利用者や家族に説明し、同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、全職員へ周知徹底しており、普通救命講習を全員が受講している。ホーム内にはAEDを設置しており、定期的使用方法を確認している。また、夜間の緊急時は、隣接している施設より応援が来る体制を構築している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間を想定した避難訓練を行っている。災害対策は系列企業の建設会社に対応しており、従業員の中には地域の消防団員が多数いて、協力を得る体制である。	日中、夜間を想定した避難訓練を実施し、災害時には、地域の消防団に入団している系列会社職員の他、地域住民等の協力を得る体制となっており、緊急事態に備えている。また、非常災害に備え、ストーブや食材、飲料水を用意し、毎月15日に物品等を確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム独自のBST(ビューティフル・スマイル・トーク)向上委員会を結成しており、「優しい笑顔 目配り 気配り 心配り」を目標に、懇切丁寧な介護に取り組んでいる。	「優しい笑顔、目配り、気配り、心配り」を目標に利用者に接している。家族の同意を得て、馴染みのある入居前の呼び名で声がけをしている他、何か失敗した時には自尊心を傷つけないような声がけをし、配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声がけを工夫したり、表情や反応を読み取り、入居者の希望を把握するように努めている。また、買い物や出前のメニュー選び等、自己決定できるような場面を作っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを尊重し、個々のペースに合わせ、柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の個性や希望を尊重し、地域の美容院にパーマをかけに出かけている。また、馴染みの理容店、美容院の出張があり、本人の希望を伝えており、その人らしさ、身だしなみ等に配慮している。			

自己 外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き、片付け等、個々の力量に合わせた役割を持ち、職員と一緒にしている。また、嗜好調査によって入居者の好みを把握し、メニューに取り入れている。	管理者が栄養士の資格を保持しており、その時期に取れる地元の食材を活用し、器にもこだわりながら、食事を楽めるように提供している。また、後片付け等は利用者と一緒にいき、食べこぼしには他の利用者に気づかれないよう、さりげなくサポートしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量をチェック表に記録し、残量チェックをしながら、状況を把握している。栄養士のアドバイスを受けて、本人の嗜好を取り入れる工夫に努めている。また、夏場のスペシャルドリンクは入居者にも好評である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄と塩水でうがいを行っている。就寝前は義歯洗浄液に浸け、清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導することで、トイレで排泄出来るように支援している。入居時、オムツを使用していたが、排泄習慣が身についたことで、布パンツ・パットの使用になった事例もあり、状態により、随時見直しを行っている。	排尿・排泄パターンを記録して利用者の能力を把握し、排泄誘導して、自立できるように支援を行っている。失禁した時には、他の利用者に気づかれないよう、さりげなく誘導し、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には水分や果物、乳製品を提供したり、腹部マッサージ、適度な運動を行い、自然排便を促している。また、受診時、医師に相談することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行い、安心して入浴をしていただけるようにしている。また、隣接する施設での温泉入浴も行っており、利用者には大変好評である。	職員は利用者の疾病を把握し、午後に入浴の支援を行っている。入浴時には羞恥心に配慮し、同性介助を実施しており、個々に合わせて対応している。また、利用者の希望の応じて、隣接する施設の温泉を借りた入浴支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムをつかみ、昼夜逆転しないように努めている。眠れない時は会話をしたり、飲み物を提供する等、安眠できるように支援している。また、足浴、マッサージ等のタクティールケアをする等、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の病歴を把握しつつ、服薬支援前に目的、副作用を理解している。説明書は生活記録に挟んで確認できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に合わせた役割を持ち、自発的に動いていただけるように支援している。レクリエーションの時間は、得意の唄や踊りを披露できるような機会を設けている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者が気分転換できるよう、天気の良い日は外を散歩したり、ドライブを行っている。また、小旅行(斜陽館へ行く)等もあり、大型バスで外出をしたり、地域の観音様へのお参りにも行っている。	年間計画を立てて小旅行やドライブを企画しており、大型バスで外出したり、天気の良い日には近隣への散歩や観音様にお参りに行く等、外出支援を行っている。外出先は日頃から利用者の意向や希望を把握し、一人ひとりの習慣や体調面も考慮して、利用者に満足していただけるように取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり、管理しているが、外出時は自己決定して買い物ができる場を設けている。また、通い帳を利用し、出張販売での購入を行っている人もいる。家族には毎月小遣いの確認後、捺印をしていただいている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった際は、いつでも電話がかけられるよう支援している。子機を使用し、居室での会話ができるような配慮もしている。手紙は本人の同意を得て開封している他、入居者の近況報告として、毎月家族に手紙を送付している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光を取り入れるため、天窓を作り、明かりを取り入れている。食器を洗う音や調理中の匂い等、五感や季節感を感じられるように工夫している。また、アロマ空気清浄器で不快な臭いが残らないようにしており、加湿器にて快適に過ごせるよう支援している。	共有スペースは天井が高くて開放感があり、大きな窓からは自然光が入り込んでいるために明るく、四季折々の風景が望め、季節の移り変わりを感じることができる。また、共有スペースには大きなソファと食卓があり、利用者は好きな場所で、思い思いに過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはゆったりとしたソファがあり、それぞれが思い思いに過ごせるように配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス、仏壇、写真、使い慣れた目覚まし時計、ラジオ、ベッド、ポータブルトイレ等、馴染みのある物を持ってもらう等、安心して過ごせるように配慮している。	居室の入り口には、職員が木材を使って手作りした名札を掲示しており、ダンスや写真等、馴染みの物を持ち込んでもらうよう、本人や家族に働きかけ、安心して過ごせるように支援している。また、持ち込みが少ない方については、利用者と職員と一緒に居室作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、廊下には手すりを設置している。また、入居者がわかりやすいよう、標識等の表示の仕方を工夫し、入居者が混乱しないように配慮している。			